

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【仲本小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p>&lt;学習上の課題&gt; 全体的には高いが、学力差が大きいため、支援を必要としている児童が一定数いる。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt; ICT環境の活用について不安を感じている児童や教員が少なくない。</p>	⇒ ・金曜日の「学力向上タイム」を有効にノートやタブレットを状況に応じて柔軟に用いる。【学校評価における「勉強がわかる」に対する肯定的な回答が85%以上】 ・教員のICTスキルを高めるために、校内研修で計画的に活用研修に取り入れ、教科指導に生かす。【「学びの指標」のICTの活用スキルが校内で昨年度よりポイントアップしている。】
思考・判断・表現	<p>&lt;学習上の課題&gt; 学力差が大きく、記述で無回答も見られる。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt; 児童同士の話し合い活動において間違った考え方を正しいものと捉えてしまうことがある。</p>	⇒ ・学校課題研修を生かし、自分の考えや思いを書くことについての支援を図る。【さいたま市学力状況調査での無解答率を減少させる。】・児童同士の話し合いの取り入れ方や方法等、学校全体で研修する。【さいたま市学習状況調査主体的で深い学びに対する肯定的な回答が90%以上】

全国学力・学習状況調査  
<小6・中3> (4月～5月)

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では、主語・述語の関係を問われる問題で課題がみられた。文中に複数の主語が出てくる場合の述語の捉えに不安がある。「だれが」「どうしたの」がしっかりと捉えて、話の内容を正確に読み取る必要がある。算数では、分速を求める問題で課題がみられた。時速、分速など、単位が変化した場合でも対応できる力を付けたい。問題が解けた時に他の解答方法を考えるなど、主体的に取組み、算数の楽しさを感じられるようにし、令和6年度さいたま市学習状況調査で「算数の勉強は好きですか。」の設問に対し、80%を超えるようにしたい。またどの教科においても解答がはやくできるように、ICTなどを用いて技能のスキルアップを図る。	
思考・判断・表現	算数では空間を認識する力に課題がみられた。球が入る立体の体積を求める問題の正答率が低かったことから、立体同士を関係づける活動について学習の中で触れていく必要がある。また各教科において、多くの情報や他の人の感想などを統合したり、正しく読み取ったりする力の育成、自分の考えや感想を伝える力の育成を図ることが必要である。加えて、この調査結果の無解答率を見ると、設問の後半に行くほど増加している傾向にある。限られた時間の中で、自分の考えをまとめる活動を、さいたま市が取り組んでいる「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」の学習を通じ、継続して取り組んでいきたい。	

①結果分析(管理職・学年主任等)  
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	分析共有(児童生徒の実態把握)	中間期報告	中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	A	・学校課題研修の中で、模擬授業を行い、実践の中でICT活用方法を学び合った。 ・学期末や学期始めの時間を使って、ICT教育部主導で新しいアプリ等の活用方法について研修した。	変更なし
思考・判断・表現	B	・全国学力・学習状況調査の結果に一定数の無解答がみられることに加え、時間内に自分の考えをまとめる力を付けるなど、引き続き伝える力の育成に取り組んでいる。 ・学習したことをつなげたり、さらに深く学んだりする力の育成を図る。	・各教科に対して主体的に取り組んでいる。【さいたま市学力状況調査「学習が楽しい」に対する肯定的な回答80%以上】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)